

第65期

株 主 通 信

平成23年4月1日～平成24年3月31日



“One Goal, One Fujitec”

最高の商品とサービスを目指し、心ひとつに！

2010年度からスタートした3か年中期経営計画

“One Goal, One Fujitec”も、いよいよ最終年度となりました。

世界で活躍するフジテック・グループが、最高の商品とサービスをお客様にご提供するという目標に向け、全員が心ひとつにして、たゆみない前進を続けています。

来年2月には、「創業65周年」という大きな節目の年を迎えることから、新たな企業価値の創造と、大いなる発展を目指しています。

行動ビジョン

1. グローバル、特にアジアを今後最も成長するエリアと位置付け、ポジションを高める。
2. 国内事業を構造改革し、新設事業の収益改善とアフターマーケットのポジションを高める。
3. 安全と品質を最優先に、顧客の信頼と期待に応えるために、人材の育成を強化する。

◆ Contents

| | | | |
|----------------|----|------------------|----|
| 社長インタビュー | 2 | 連結決算情報 | 11 |
| 主な活動概況 | 5 | 株式の状況 | 15 |
| 新商品 | 7 | 企業データ | 16 |
| トピック | 9 | 株式についてのご案内 | 17 |
| 社会貢献活動 | 10 | | |



中期経営計画“One Goal, One Fujitec”2年度のご報告と、
最終年度の実践目標について

グローバル事業戦略を強力に推進し、
収益の一層の拡大を目指します。

代表取締役社長 内山 高一

最初に、昨年度の世界経済、および昇降機市場の状況についてお聞かせください。

昨年度の世界経済は、中国を始めとする新興国で、輸出の減速や金融引き締めなどにより、景気拡大が鈍化しました。また、北米では緩やかな景気回復にとどまるとともに、欧州政府債務問題の長期化などで、総じて減速感が強まりました。

日本経済は、昨年3月に発生した東日本大震災の影響による落ち込みから、持ち直しつつあるものの、世界経済の減速、円高やタイの洪水の影響などで、厳しい状況が続きました。

こうした情勢の中、昇降機業界におきまして、中国市場では大規模住宅向けを中心に需要が堅調に拡大しましたが、北米や欧州での需要は低調に推移しました。日本では、震災後、需要の回復傾向が見られるものの、依然として低水準で推移しました。

第65期は中期経営計画の2年度でしたが、昨年度の業績はどのようになりましたか？

当社では、2010年度からスタートさせました3カ年中期経営計画“One Goal, One Fujitec”が、昨年度は2年目となりました。国内市場では、既設のエレベータ・エスカレータの性能やデザインを刷新するモダンゼーションにおきまして、「エレベータ制御盤交換パッケージ」の販売が順調に拡大しました。

一方、建設需要が低調な中で、エレベータの新設工事が減少したことによりまして、国内受注高は前期比0.1%減の467億31百万円となりました。

海外市場におきましては、北米で新設工事が減少したものの、中国では大規模住宅開発向けエレベータや地下鉄向けエスカレータで、新設工事が大幅に増加しました。また、南アジアでも、

社長インタビュー

シンガポール住宅開発局向けの大型受注などで、海外受注高は前期比4.5%増の613億94百万円となりました。

その結果、受注高合計は前期比2.4%増の1,081億250百万円となりました。なお、海外受注高は為替変動による影響を除くと、実質10.4%増となっています。

売上高は、国内売上高が前期比1.3%減の479億48百万円、海外売上高が前期比6.8%増の571億13百万円となり、合計が前期比2.9%増の1,050億61百万円となりました。なお、海外売上高は為替変動による影響を除くと、実質では13.0%増となりました。

損益面では、日本での増益や北米での損失縮小などにより、営業利益は前期比2.7%増の53億63百万円、経常利益は前期比6.5%増の57億99百万円となりました。特別損益の純額は1億56百万円の利益となり、税金等調整前当期純利益は前期比23.1%増の59億55百万円となりました。

一方、前期における法人税等調整額の多額なマイナス計上の特殊要因がなくなり、税金費用は前期に比べ、61億55百万円増加し、25億8百万円となりました。

これらの結果、当期純利益は前期比65.6%減の26億7百万円となりました。

中期経営計画の最終年度となります今年度の経営方針や重点課題についてお聞かせください。

世界経済において、アジアの成長率は著しく、その核となるのが「中国」です。今や昇降機新設需要は年間45万台とも言われ、“世界最大の昇降機市場”となっていることから、今年度も中国に経営資源を投入してまいります。

北京近郊のエレベータ生産拠点「華昇フジテック」では、生産体制および販売体制の一層の拡充を図りますとともに、「新エレベータ研究塔」の建設を始めており、高層ビルや大規模ビルに対応した最先端技術力の強化を目指していきます。

このほか中国には、エスカレータ生産拠点「上海華昇フジテック」、エレベータ主要機器の生産・供給拠点「上海調達センター」、さらに研究開発拠点「上海RDセンター」があり、開発・生産・調達に至る一貫体制で、世界市場に向けたグローバルビジネスを加速していきます。

今後エレベータの需要が大いに期待されるインドにおきましては、新工場が本格稼働しており、更なるシェア拡大に向けての販売活動を強化していきます。

さらに、北米、南米、香港、シンガポールといった成熟市場では、モダン化ニーズの獲得に全力を挙げ、収益の一層の拡大に取り組んでいきます。

商品開発面では、各地での大規模な再開発プロジェクトや「スマートシティ」構想の広がりに伴い、人と環境に優しい商品、高度なセキュリティや災害に対応した商品の開発を目指します。

このほか、品質保証体制としまして、「グローバル品質統括センター」を上海に設置しました。グローバルな視点から、品質情報を一元的に管理し、迅速な対応と再発防止に取り組んでまいります。

国内市場においては、どのような戦略を展開していかれますか？

国内においては、エレベータの〈エクシオール〉の機能を更に充実させ、本年1月に販売を開始しました。全機種LED光源の採用、回生電力の有効活用、さらに業界で初めて「走行お知らせ音」を標準装備するなど、多彩なニーズに対応した商品として、更なる拡販に取り組んでいきます。

エスカレータでは、〈GS-NX〉に加え、新型エスカレータ〈スリムフィット〉を昨年8月から販売開始しました。エスカレータの構造部分となるトラスの幅を業界最小とした画期的な商品で、これまでスペースに制約のあった駅や商業施設などにも設置可能となります。〈スリムフィット〉を新たにラインアップしたことで、国内エスカレータ市場での更なるシェア拡大を目指しています。

アフターマーケット事業においては、モダニゼーションの需要が堅調なことから、引き続き、需要の掘り起こしに全力を挙げ、収益の一層の拡大に努めていきます。

さらに、安全への取り組みにおいては、防災対策へのニーズに対応するため、既設エレベータ向けの安全対策改修パッケージの提供を促進してまいります。

次期の業績見通しについてお聞かせください。

昇降機市場におきまして、中国では大規模住宅向け需要は続くものの、その他の地域では、総じて需要の回復が緩慢な中、価格競争がますます激化することが予想されます。

次期の業績見通しにつきまして、売上高は引き続き、中国を中心とする東アジアでの増加を見込んでおります。損益

面では、北米での損益改善とともに、日本および東アジアでの増益を見込んでおります。

当期の配当金についてお聞かせください。

当期の期末配当金につきましては、当初の予定どおり、1株当たり7円とさせていただきます。これにより、年間配当金は、中間配当金1株当たり5円と合わせ、1株当たり12円となります。

次期の配当につきましては、中間配当金1株当たり6円を予定しております。期末配当金は、当社「創業65周年」を迎えるに当たり、普通配当6円に記念配当2円を加え、1株当たり8円とし、年間配当金は1株当たり14円を予定しております。

最後に、株主の皆様へメッセージをお願いします。

本年は中期経営計画の最終年度となりますことから、2013年3月期の経営目標を必達すべく、全社全部門挙げて重点課題の達成に邁進してまいります。

当社を取り巻く企業環境は、依然として厳しい状況が続くものと思われませんが、中国を中心とするグローバル事業戦略の強力な推進、堅調な需要の続くアフターマーケット事業の一層の拡大、さらに“安全・安心”を追求した商品とサービスの提供をこれからも進めてまいります。

来年2月には、当社「創業65周年」という大きな節目を迎えますことから、新たな企業価値の創造と、大いなる発展を目指してまいります。株主の皆様には、今後とも一層のご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

主な活動概況

日本

Japan



ギンザコマツ



東京ソラマチ®

東京では、銀座に建つ商業テナントビル「ギンザコマツ」がオープンしました。東館と西館の2棟から成り、東館には世界最大の旗艦店「ユニクロ銀座店」が入居しています。ここでは、エレベータとエスカレータ計27台が活躍しています。

同じく東京では、話題の「東京スカイツリー®」に隣接する大型商業施設「東京ソラマチ®」に、エスカレータ16台を納めています。

京都では、国内初の内陸型大規模水族館「京都水族館」がオープン

し、エレベータ4台が活躍しているのを始め、総合文化施設「京都文化博物館」のリニューアルに伴い、エスカレータ6台が納められています。

このほか広島では、大型商業施設「フジグラン広島」にエレベータとエスカレータ計24台を納入しています。

一方、主な受注としては、東京の「21・25森ビル建替計画」向けに、エレベータとエスカレータ計21台を納めますとともに、リニューアル工事として、「東京都庁 第二本庁舎」向けにエレベータとエスカレータ計8台を受注しています。

このほか静岡では、東静岡駅前の大型商業施設向けに、エスカレータ36台を受注しています。

北南米

North & South America

米国では、ニューヨークの中心部・マンハッタンに建設中の高層複合ビル「グラニット・ブロードウェイ」向けに、分速420mの高速機種を含むエレベータ13台を受注しました。地上66階建の同ビルは、オフィス、商業施設に加え、一流ホテル「マリオット・ホテル」が入居するもので、ニューヨークでも有数の高層ビルとなります。

カナダのトロントでは、地上61階建の高級コンドミニアム「エル・タワー」が現在建設中です。外観がL字型の斬新な形をしており、ここに分速210mの高速機種を含むエレベータ12台が納められます。

同じくトロントでは、複合施設「メイプル・リーフ・ガーデンズ」向けに、エレベータとエスカレータ計19台を納入しています。



グラニット・ブロードウェイの完成予想図



マデーロ・オフィス

アルゼンチンのブエノスアイレスでは、地上30階建の高級オフィスビル「マデーロ・オフィス」が完成し、エレベータ20台が活躍するとともに、地上36階建の高層オフィスビル「ベルグラノー・オフィス」向けには、エレベータ14台を受注しました。

東アジア

East Asia



政府総合庁舎本部ビル

香港では、香港島側ビジネス街に隣接する一等地に、“政府総合庁舎本部ビル”が完成しました。総合庁舎、立法会議事堂、オフィス棟から成る同施設には、分速360mの高速機種

を含むエレベータとエスカレータ計83台が活躍しています。

同じく香港地下鉄チンクワンオウ駅に隣接するホテル・商業施設・住宅の複合施設“ザ・ウィングス”が完成し、エレベータとエスカレータ計75台が活躍しています。

中国・南京市の交通機関“南京地下鉄”では、エスカレータと動く歩道計98台が納められていますが、新たに3号線と10号線向けに、エスカレータ234台を大量受注しました。

このほか、遼寧省鞍山市の大規模住宅が完成し、エレベータ248台が活躍しているのを始め、上海市の“中国人寿データセンター”向けにエレベータ24台を受注しています。

韓国のソウルでは、金浦国際空港に隣接して建つ大型複合商業施設“ロッテモール金浦空港”がオープンし、72台のエスカレータと動く歩道が活躍しています。

このほか台湾では、大手金融グループ「フボン・フィナンシャル・ホールディング」

が建設するホテルとデパートの複合ビル“フボン信義A10”向けに、エレベータとエスカレータ計34台を受注しています。



ロッテモール金浦空港

南アジア

South Asia

シンガポールでは、HDB(シンガポール住宅開発局)の高層住宅向けに、800台のエレベータを大量一括受注し、順次、据付工事を行っています。HDBからは、これまで新設向けとリニューアル向けを合わせ、エレベータの受注累計台数は約20,000台に達しています。

同じくシンガポールでは、住宅と商業施設などから成る大型複合施設“スコッツ・スクエア”が完成しました。ここでは、エレベータとエスカレータ計31台が活躍しています。



HDBの高層住宅群



トレーダース・ホテル・イスカンダルの完成予想図

マレーシアのジョホールでは、“トレーダース・ホテル・イスカンダル”が建設中で、屋内テーマパークやレストランを備えた同ホテル向けに、エレベータとエスカレータ計40台を受注しています。

欧州・中東

Europe & Middle East

ドイツのベルリンでは、歴史的に著名な“ベルリン国立歌劇場”の大改装に伴い、エレベータ9台を受注しました。これまで“ドイツ連邦議会議事堂”“ドイツ連邦議会議員庁舎”にも多数のエレベータを納入しており、ドイツを代表する施設への実績がまた加わります。

サウジアラビアのジェッダでは、“キング・アブドゥルアジーズ大学”向けにエレベータ74台のリニューアル工事を受注しています。



ベルリン国立歌劇場

業界初！「走行お知らせ音」を標準装備し、 〈エクシオール〉の機能を一段と充実！

2008年4月の発売以来、皆様にご好評をいただいておりますマシンルームレス・エレベータ〈エクシオール〉。環境性能や省エネ、ユニバーサルデザインという社会的ニーズの高まりに対応して、〈エクシオール〉の機能を一段と充実させました。

すべての機種天井に、LED照明を標準装備しました。従来の蛍光灯式と比べ、年間のCO₂排出量は半減、消費電力については約3分の2になります。また、光源寿命も4倍強となり、ランニングコストも大幅に削減できます。

エレベータ運転時に発生するモータからの再生電力をバッテリーに充電し、通常時にも有効活用する機能をご用意しました。

停電時自動着床装置「ランディック」に機能付加することで、商用電力とバッテリー電力をハイブリッド化(併用)し、最大約20%の省電力を実現できます。

さらに、エレベータが途中階を通過するとき、通過と行き先の方向を電子音で知らせる「走行お知らせ音」を業界で初めて標準装備しました。特に、視覚障がいのある人にはエレベータが走行していることを確実に知らせ、安心してご利用いただけます。

今後も、エレベータに求められる安全性、快適性、信頼性を高次元に進化させ、卓越した商品とサービスの提供に努めてまいります。

※上記数値は、いずれも当社従来比。



機能を一段と充実させた〈エクシオール〉かご内室

XIOR

エクシオール

既設エレベータ向けに、安全対策の改修パッケージ 補助金支給制度利用で安全性向上！

エレベータの安全性向上や防災対策への意識が高まる中、2009年9月に建築基準法施行令が改正され、「戸開走行保護装置の設置」「地震時管制運転装置の設置」「耐震補強の実施」が義務付けられました。

しかし、それ以前に設置されたエレベータについては法律の適用外となるため、現状では安全基準を満たさないエレベータは、国内で稼働しているエレベータの約9割を占めていると言われています。

こうした中、できるだけ安価で安全性を保持したいというお客様のニーズにお応えするのが、フジテックの既設エレベータ向けの安全対策改修パッケージです。

お客様のエレベータのタイプや稼働状態に応じて、本パッケージと様々なニューアル商品を組み合わせ、安全性・機能性を向上させる最適なメニューを提供します。

既設エレベータの安全性を高めるための施策として、エレベータの防災対策改修に要する工事費用に対して、国から補助金(既設昇降機安全確保緊急促進事業)が適用されることから、フジテックでは“安全・安心”を更に促進していきます。

安全対策の改修パッケージ内容

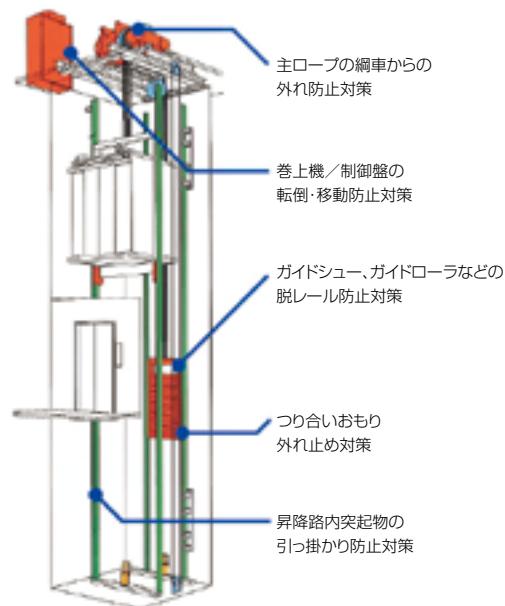
- 1 戸開走行保護装置の設置
- 2 P波センサー付 地震時管制運転装置の設置
- 3 耐震補強

P波センサー付 地震時管制運転装置



地震の初期微動をキャッチしてエレベータを最寄階に速やかに着床させ、乗客の閉じ込めを防ぎます。

耐震補強 地震の揺れによるロープ類の外れや引っ掛かりを防ぎます。



大規模化する中国での建設需要に対応し、最先端の「新エレベータ研究塔」を建設！

中国でのグローバル法人「華昇フジテック」は、高層化・大規模化する中国での建設需要に対応して、技術開発力の一層の強化を図るため、本社敷地内に、「新エレベータ研究塔」を建設することになりました。

今年4月5日、中国エレベータ協会の李守林理事長を始め、中国の業界関係者やマスコミ関係者など、200名を超える参列者の中で、「新エレベータ研究塔」の地鎮祭が盛大に執り行われました。

今回、新たに建設する「新エレベータ研究塔」は、地上高さ151mで、これは華昇フジテックが本年、中国で生産を開始して「15周年」という節目の年を迎えるのを機に、中国において、“No.1”のエレベータ・メーカーを目指すという意味を込めています。

外観のデザインは、大きく花が開花するように、未来へ向けて発展する姿をイメージしています。

ここでは、華昇フジテックが最近受注しました北京の大型複合ビル“望京SOHO”（エレベータとエスカレータ計142台）のような高層ビルに対応して、エレベータの快適性・機能性・安全性・信頼性といったテストを始め、新世代エレベータの開発を行うなど、最先端技術力の更なる強化を目指していきます。

「新エレベータ研究塔」の完成は、2013年8月の予定です。



華昇フジテック・廊坊本社で挙行政された「新エレベータ研究塔」地鎮祭



「新エレベータ研究塔」完成予想図

“ビッグフィット”での環境活動が高く評価され、 「おおさか優良緑化賞・大阪府知事賞」を受賞！

大阪府茨木市に位置するフジテックの
アフターマーケット拠点“ビッグフィット”
が、2011年度の「おおさか優良緑化賞・
大阪府知事賞」に選ばれました。

「おおさか優良緑化賞」とは、大阪府自
然環境保全条例39条に基づき、建築物
等における緑化に関して、特に優れた取
り組みをした団体を顕彰する制度です。

“ビッグフィット”は、2010年4月、フジ
テックの旧本社から、据付・メンテナンス
というフィールド部門を集結したアフ
ターマーケット拠点として、新しく生まれ
変わりました。

そのリニューアルの際、屋上緑化に取り
組むとともに、やむなく伐採したクスノ

キでベンチを作って設置したり、駐車場
に敷いた芝生が傷まないように駐車位
置のローテーションを行うなど、細かな
配慮が選考委員に高く評価されたもの
です。

今年2月16日、大阪府庁本館にて、表
彰式が開催され、2011年度の受賞者
に対して、表彰状が授与されました。

フジテックでは、この“ビッグフィット”
のみならず、エレベータの開発・生産拠
点“ビッグウィング”、エスカレータの開
発・生産拠点“ビッグステップ”におい
ても、積極的な緑化に取り組んでおり、こ
れからも全社挙げて、地球環境保全活動
を更に推進していきます。



芝生が傷まないよう、駐車位置のローテーションを行う駐車場



シンボルツリーとなるヒマラヤスギと、クスノキで作ったベンチ



“ビッグフィット”の屋上緑化

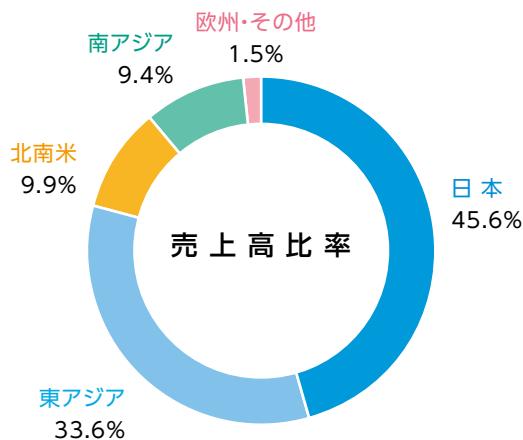
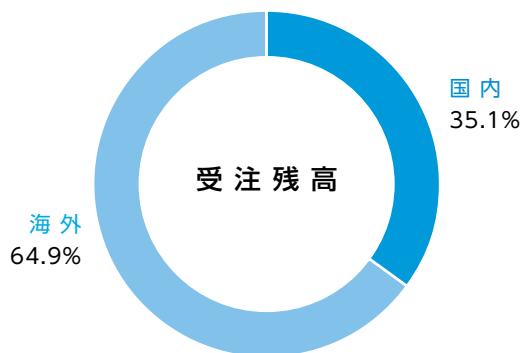
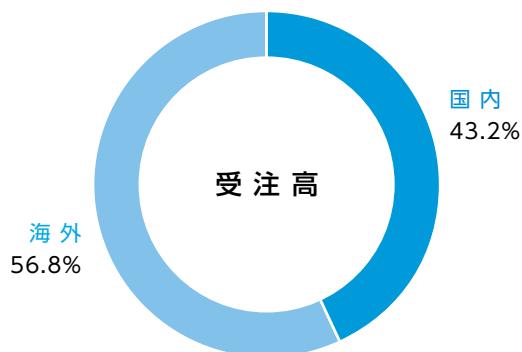
連結決算情報

営業の状況

平成24年3月期(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

金額(百万円)

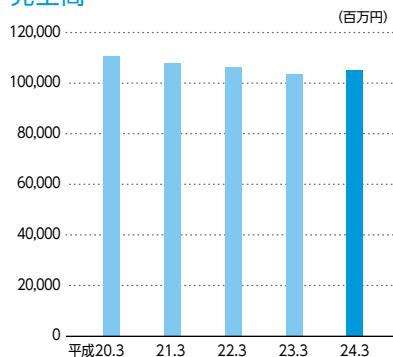
| | 受注高 | 売上高 | 受注残高 |
|----|---------|---------|--------|
| 国内 | 46,731 | 47,948 | 34,391 |
| 海外 | 61,394 | 57,113 | 63,604 |
| 合計 | 108,125 | 105,061 | 97,996 |



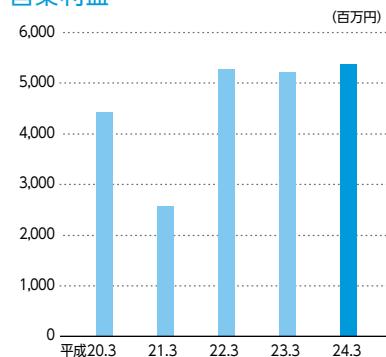
業績の推移

| | | 平成20年3月期 | 平成21年3月期 | 平成22年3月期 | 平成23年3月期 | 平成24年3月期 |
|-----------------------|-----|----------|----------|----------|----------|----------------|
| 売上高 | 百万円 | 110,632 | 107,609 | 106,137 | 102,053 | 105,061 |
| 営業利益 | 百万円 | 4,428 | 2,568 | 5,288 | 5,221 | 5,363 |
| 経常利益 | 百万円 | 4,725 | 2,544 | 6,053 | 5,447 | 5,799 |
| 当期純利益または当期純損失(△) | 百万円 | 2,219 | △649 | 4,061 | 7,569 | 2,607 |
| 1株当たり当期純利益または当期純損失(△) | 円 | 23.66 | △6.94 | 43.40 | 80.89 | 27.86 |
| 総資産 | 百万円 | 112,043 | 100,823 | 111,099 | 104,817 | 107,213 |
| 純資産 | 百万円 | 68,355 | 59,810 | 64,056 | 67,161 | 67,915 |
| 1株当たり純資産 | 円 | 675.35 | 591.87 | 636.25 | 671.24 | 674.78 |
| 研究開発費 | 百万円 | 2,257 | 2,008 | 1,882 | 1,840 | 1,970 |
| 設備投資 | 百万円 | 2,003 | 2,733 | 6,564 | 1,665 | 1,354 |

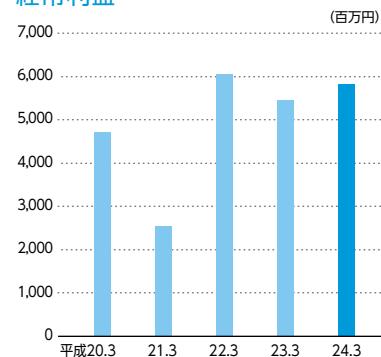
売上高



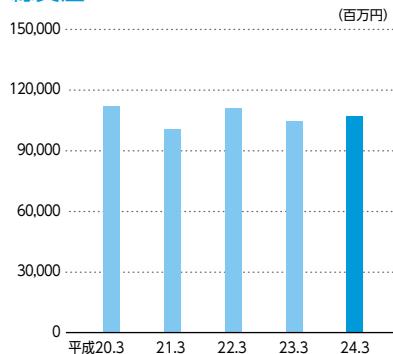
営業利益



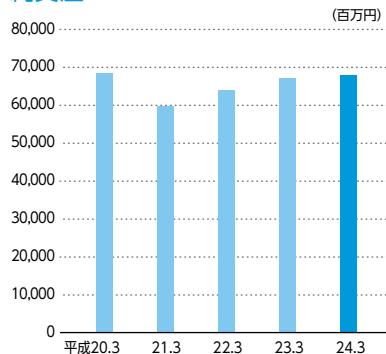
経常利益



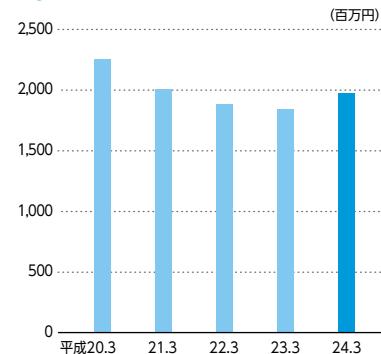
総資産



純資産



R&D



連結決算情報

連結貸借対照表 (平成24年3月31日現在)

金額(百万円)

| 資産の部 | | 負債の部 | |
|-----------------|----------------|--------------------|----------------|
| 流動資産 | 65,431 | 流動負債 | 33,401 |
| 現金及び預金 | 25,150 | 支払手形及び買掛金 | 11,567 |
| 受取手形及び売掛金 | 25,457 | 短期借入金 | 1,832 |
| 商品及び製品 | 2,704 | 1年内返済予定の長期借入金 | 11 |
| 仕掛品 | 2,640 | リース債務 | 5 |
| 原材料及び貯蔵品 | 5,844 | 未払法人税等 | 669 |
| 繰延税金資産 | 1,586 | 賞与引当金 | 1,710 |
| その他 | 2,605 | 役員賞与引当金 | 46 |
| 貸倒引当金 | △557 | 工事損失引当金 | 2,900 |
| | | 完成工事補償引当金 | 298 |
| | | 損害補償損失引当金 | 128 |
| | | 前受金 | 9,607 |
| | | その他 | 4,623 |
| 固定資産 | 41,782 | 固定負債 | 5,896 |
| 有形固定資産 | 28,594 | 長期借入金 | 1,500 |
| 建物及び構築物 | 17,774 | リース債務 | 3 |
| 機械装置及び運搬具 | 2,164 | 繰延税金負債 | 54 |
| 工具、器具及び備品 | 1,375 | 退職給付引当金 | 4,122 |
| 土地 | 6,807 | 資産除去債務 | 19 |
| リース資産 | 8 | 長期未払金 | 191 |
| 建設仮勘定 | 465 | その他 | 5 |
| 無形固定資産 | 2,506 | 負債合計 | 39,298 |
| のれん | 694 | | |
| その他 | 1,811 | 純資産の部 | |
| 投資その他の資産 | 10,681 | 株主資本 | 84,197 |
| 投資有価証券 | 4,281 | 資本金 | 12,533 |
| 長期貸付金 | 1,916 | 資本剰余金 | 14,565 |
| 繰延税金資産 | 2,213 | 利益剰余金 | 57,228 |
| その他 | 2,415 | 自己株式 | △130 |
| 貸倒引当金 | △145 | その他の包括利益累計額 | △21,058 |
| | | その他有価証券評価差額金 | 455 |
| | | 為替換算調整勘定 | △21,514 |
| 資産合計 | 107,213 | 少数株主持分 | 4,777 |
| | | 純資産合計 | 67,915 |
| | | 負債・純資産合計 | 107,213 |

(注) 1. 当年度の連結子会社は18社であり、持分法適用会社はありません。
2. 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

◆ 連結損益計算書

(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

金額(百万円)

| | |
|----------------|---------|
| 売上高 | 105,061 |
| 売上原価 | 84,017 |
| 売上総利益 | 21,043 |
| 販売費及び一般管理費 | 15,680 |
| 営業利益 | 5,363 |
| 営業外収益 | 637 |
| 受取利息 | 302 |
| 受取配当金 | 119 |
| 雑収入 | 215 |
| 営業外費用 | 201 |
| 支払利息 | 83 |
| 為替差損 | 13 |
| たな卸資産廃棄損 | 33 |
| 訴訟関連費用 | 34 |
| 雑損失 | 36 |
| 経常利益 | 5,799 |
| 特別利益 | 407 |
| 固定資産売却益 | 0 |
| 投資有価証券売却益 | 18 |
| 事業譲渡益 | 137 |
| 受取和解金 | 150 |
| 集約化特別助成金 | 100 |
| 特別損失 | 251 |
| 固定資産売却損 | 3 |
| 固定資産除却損 | 70 |
| 減損損失 | 14 |
| 投資有価証券売却損 | 27 |
| 投資有価証券評価損 | 106 |
| 関係会社出資金評価損 | 26 |
| 税金等調整前当期純利益 | 5,955 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 1,166 |
| 法人税等調整額 | 1,341 |
| 少数株主損益調整前当期純利益 | 3,447 |
| 少数株主利益 | 840 |
| 当期純利益 | 2,607 |

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

◆ 連結キャッシュ・フロー計算書

(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

金額(百万円)

| | |
|---------------------|--------|
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | 9,685 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | △3,952 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | △4,179 |
| 現金及び現金同等物に係る換算差額 | △59 |
| 現金及び現金同等物の増減額(△は減少) | 1,494 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | 8,223 |
| 現金及び現金同等物の期末残高 | 9,718 |

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

◆ 連結株主資本等変動計算書

(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

金額(百万円)

| | 株主資本 | | | | |
|-------------------------|--------|-----------|-----------|----------|------------|
| | 資本金 | 資本 剰余金 | 利益 剰余金 | 自己 株式 | 株主資本 合計 |
| 当期首残高 | 12,533 | 14,565 | 55,744 | △128 | 82,715 |
| 当期変動額 | | | | | |
| 剰余金の配当 | | | △1,122 | | △1,122 |
| 当期純利益 | | | 2,607 | | 2,607 |
| 自己株式の取得 | | | | △2 | △2 |
| 株主資本以外の項目の 当期変動額(純額) | | | | | |
| 当期変動額合計 | — | — | 1,484 | △2 | 1,482 |
| 当期末残高 | 12,533 | 14,565 | 57,228 | △130 | 84,197 |

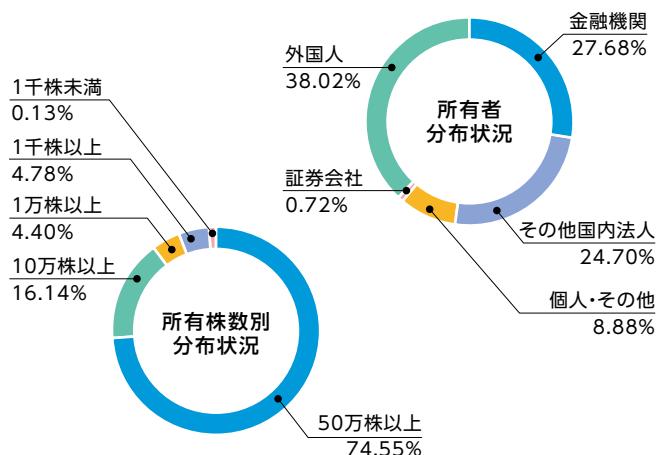
| | その他の包括利益累計額 | | | 少数 株主 持分 | 純資産 合計 |
|-------------------------|----------------------|--------------|-----------------------|----------------|-----------|
| | その他 有価証券 評価差額金 | 為替換算 調整勘定 | その他の 包括利益 累計額合計 | | |
| 当期首残高 | 404 | △20,309 | △19,904 | 4,350 | 67,161 |
| 当期変動額 | | | | | |
| 剰余金の配当 | | | | | △1,122 |
| 当期純利益 | | | | | 2,607 |
| 自己株式の取得 | | | | | △2 |
| 株主資本以外の項目の 当期変動額(純額) | 50 | △1,204 | △1,154 | 426 | △728 |
| 当期変動額合計 | 50 | △1,204 | △1,154 | 426 | 754 |
| 当期末残高 | 455 | △21,514 | △21,058 | 4,777 | 67,915 |

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

| | |
|----------|--------------------|
| 発行済株式の総数 | 93,767,317株 |
| 株主数 | 3,503名 |
| 上場証券取引所 | 東京証券取引所、大阪証券取引所(注) |

(注) 当社は、平成24年5月11日開催の取締役会において、大阪証券取引所に上場している当社普通株式について、上場廃止申請を行うことを決議し、平成24年5月14日に上場廃止申請をいたしました。

所有者分布状況・所有株数別分布状況

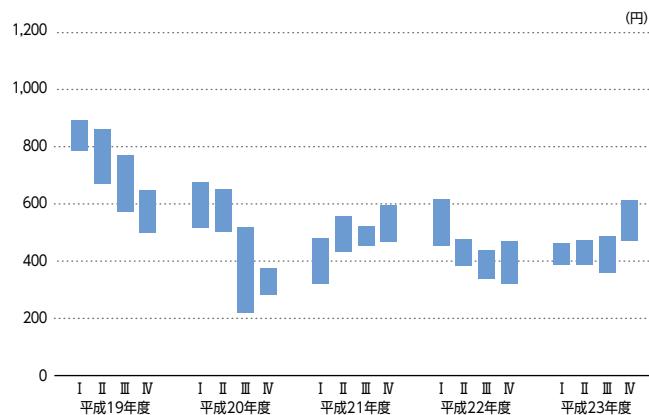


大株主

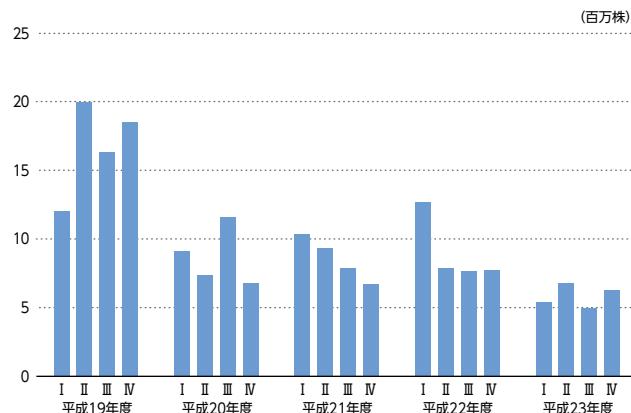
| 株主名 | 持株数(千株) | 持株比率(%) |
|---|---------|---------|
| 1. シティグループグローバル マーケッツ インター セキュリティーズ セーフキーピング アカウント 418 | 13,752 | 14.69 |
| 2. 株式会社ウチヤマ・インターナショナル | 10,025 | 10.71 |
| 3. 富士電機株式会社 | 5,089 | 5.43 |
| 4. クレディット スイス アーゲー チューリッヒ | 4,733 | 5.05 |
| 5. 株式会社りそな銀行 | 4,203 | 4.49 |
| 6. 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口) | 3,275 | 3.50 |
| 7. 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4) | 3,118 | 3.33 |
| 8. メロン パンク トリーティー クライアンツ オムニバス | 2,146 | 2.29 |
| 9. 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口) | 2,037 | 2.17 |
| 10. 株式会社みずほコーポレート銀行 | 1,989 | 2.12 |

(注) 持株比率は平成24年3月31日現在の発行済株式総数である93,767,317株から自己株式198,039株を除いた93,569,278株を基準に計算しています。

株価推移



出来高推移



◆ 会社の概況

設立 昭和23年2月9日
 資本金 125億3,393万円 (平成24年3月31日現在)

◆ フジテック・グループ

日本 本社 滋賀県彦根市 ビッグウィング TEL(0749)30-7111
 東京本社 東京都港区三田3丁目9-6 TEL(03)4330-8200

| | | |
|------|---|---|
| 北米 | アメリカ カナダ グアム | FUJITEC AMERICA, INC. FUJITEC CANADA, INC. FUJITEC PACIFIC, INC. |
| 南米 | ベネズエラ アルゼンチン ウルグアイ | FUJITEC VENEZUELA C.A. FUJITEC ARGENTINA S.A. FUJITEC URUGUAY S.A. |
| 欧州 | ドイツ イギリス | FUJITEC DEUTSCHLAND GmbH FUJITEC UK LTD. |
| 中東 | サウジアラビア エジプト アラブ首長国連邦 | FUJITEC SAUDI ARABIA CO., LTD. FUJITEC EGYPT CO., LTD. FUJITEC UAE |
| 南アジア | シンガポール フィリピン マレーシア インドネシア インド ベトナム タイ | FUJITEC SINGAPORE CORPN. LTD. FUJITEC, INC. FUJITEC (MALAYSIA) SDN. BHD. P.T. FUJITEC INDONESIA FUJITEC INDIA PRIVATE LTD. FUJITEC VIETNAM CO., LTD. FUJITEC (THAILAND) CO., LTD. |
| 東アジア | ホンコン 台湾 コリア 中国 | FUJITEC (HK) CO., LTD. 富士達股份有限公司 FUJITEC KOREA CO., LTD. 華昇富士達電梯有限公司 上海華昇富士達扶梯有限公司 上海富士達電梯研発有限公司 富士達電梯配件(上海)有限公司 |

◆ 役員

| | | |
|-----|----------|---------------|
| 取締役 | 代表取締役社長 | 内山 高一 |
| | 代表取締役副社長 | 関口 岩太郎 |
| | 取締役 | ナラヤナピレー・スグマラン |
| | 取締役 | 岡田 隆夫 |
| | 取締役 | 白倉 三徳 |
| | 取締役 | 花川 泰雄 |
| | 取締役 | 稲葉 和夫 |

| | | |
|-----|-------|-------|
| 監査役 | 常勤監査役 | 野木 正彦 |
| | 常勤監査役 | 北川 由雄 |
| | 監査役 | 中野 正信 |
| | 監査役 | 佐伯 照道 |

| | | |
|------|---------|----------------|
| 執行役員 | 執行役員社長 | 内山 高一* |
| | 執行役員副社長 | 関口 岩太郎* |
| | 専務執行役員 | ナラヤナピレー・スグマラン* |
| | 専務執行役員 | 岡田 隆夫* |
| | 常務執行役員 | 津山 圭二 |
| | 常務執行役員 | 奥田 勝次 |
| | 執行役員 | 梶田 順司 |
| | 執行役員 | 井上 治男 |
| | 執行役員 | 多川 正弘 |
| | 執行役員 | 原田 政佳 |
| | 執行役員 | 内山 泰行 |
| | 執行役員 | 筒井 邦彦 |
| | 執行役員 | 坂本 晴彦 |
| | 執行役員 | 加藤 義一 |
| | 執行役員 | 宇都宮 靖雄 |
| | 執行役員 | 浅野 隆史 |
| | 執行役員 | 伊豆 原久男 |

*は兼務しています。
 (平成24年6月27日現在)

| | |
|---------------------------|---|
| 事業年度 | 4月1日から翌年3月31日まで |
| 定時株主総会 | 毎年6月 |
| 基準日 | 定時株主総会・期末配当：毎年3月31日 中間配当：毎年9月30日 |
| 公告方法 | 電子公告により行います。 ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告によることができない場合の公告方法は、日本経済新聞に掲載することといたします。 ホームページアドレス： http://www.fujitec.co.jp/koukoku/ |
| 株主名簿管理人および 特別口座の口座管理機関 | 東京都千代田区丸の内1丁目4-1 三井住友信託銀行株式会社 |
| 同事務取扱場所 | 〒540-8639 大阪市中央区北浜4丁目5-33 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 |
| 郵便物送付先 | 〒168-0063 東京都杉並区和泉2丁目8-4 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 |
| (電話照会先) | 電話 0120-782-031 (フリーダイヤル) 取次事務は三井住友信託銀行株式会社の本店および全国各支店で 行っております。 |

● 住所変更、単元未満株式の買取等のお申出先について

株主様の口座のある証券会社にお申出ください。

なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

● 未払配当金の支払について

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

● 「配当金計算書」について

配当金お支払いの際にご送付しております「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねております。確定申告を行う際は、その添付資料としてご使用いただくことができます。

ただし、株式数比例配分方式をご選択いただいている株主様につきましては、源泉徴収税額の計算は証券会社等にて行われます。

確定申告を行う際の添付資料につきましては、お取引の証券会社等にご確認をお願いします。

なお、配当金領収書にて配当金をお受取りの株主様につきましても、配当金のお支払いの都度、

「配当金計算書」を同封させていただいております。

※確定申告をなされる株主様は大切に保管ください。

業界最小のトラス幅を実現！ 省エネ・省スペース型エスカレータ〈スリムフィット〉

エスカレータの構造部分となるトラスの幅を業界最小とした、画期的な新型エスカレータ〈スリムフィット〉を昨年8月から販売開始しましたところ、鉄道関係や商業施設などで、大きな話題を集めています。

〈スリムフィット〉は、人が乗るステップ幅を従来機種と同じとしながらも、トラス幅を削減し、業界最小サイズとなる1300mmを実現しました。

また、エスカレータの水平方向の長さとなる梁間寸法の更なる削減、トラス深さもより浅くすることで、これまでスペースに制約が多かった場所への設置が容易になりました。

さらに、〈スリムフィット〉は、ライト部分にLED光源を採用することで、従来の蛍光灯式に比べ、照明の消費電力量は60%カットすることができ、大幅な省エネルギー化も実現します。

フジテックでは、標準型エスカレータ〈GS-NX〉に加えて、〈スリムフィット〉をラインアップすることで、更なるシェア拡大を目指しています。



2012年日経BP広告賞において 「デジタル広告大賞」を受賞！

日経BP社が主催する「日経BP広告賞」では、今年からデジタル広告賞が新設され、その第1回として、フジテックの〈スリムフィット〉のバナー広告が、「デジタル広告大賞」を受賞しました。



「デジタル広告大賞」を受賞した〈スリムフィット〉のバナー広告

フジテック株式会社

www.fujitec.com